

光心寺 光心

No. 32

令和六年 6月
2024年5月31日発行

令和六年度 報恩講 日程

十勝山 光心寺 第三世住職
聞光院 釋澤昭 一周忌法要

親鸞聖人御誕生850年
立教開宗800年
本堂修復落成 慶讚法要



令和六年度 十勝山光心寺

宗祖親鸞聖人 報恩講 ほうおんこう ご案内

6月27日(木曜日)

午後

13:30 おおたいや 大速夜法要 ご法話二席

15:30頃 終了

6月28日(金曜日)

午後

13:30 満日中法要 ごまんぢ ご法話二席

15:30 報恩講 お楽しみ抽選会

16:00 終了



ご講師

奈良教区 圓光寺 住職

和氣 秀剛 師



1978(昭和53)年、カナダ生まれ。
本願寺派布教使、中央仏教学院講師。
奈良県五條市圓光寺住職。
全国を布教で巡回しながら、「布教法」の講師として次世代の僧侶育成に尽力されています。
和氣氏の御尊父は開教師でしたので、カナダで生を受けられました。
その世話をされていた林七百子さんを、幼少期「祖母」と慕っていたそうです。
その林七百子さんは、光心寺前坊守・桃井三千世の姉でした。
そのようなご縁があり、この度タイトなスケジュールをお差し繰りいただき、当寺の報恩講にご出向いただくことになりました。
先生のお話は、初めての方でも大変わかりやすく、平易な言葉でお取り次ぎくださいますので、どうぞお誘い合わせの上、お詣りくださいますようご案内申し上げます。

本命はあなた

※和氣師のお話の要約です。

私たちは、おぎゃーと生まれて、実は何もできない状態で生まれてきます。ご飯も、最初は硬いものは食べられません。

ミルクから始まり、水分の多い、とろとろの食べ物になり、歯が生えてきても、まだ、柔らかめなものを食べさせてもらいます。

これ、私が「やって下さい」と頼んだわけでもないのに、私のことを「放ってはおけない」という人がいたんですね。

だから、今があるんですね。

そこに「願い」が掛けられていたんですね。

他のことを他のひとを放っておいても

「あなたが本命」と言ってくれた方がいたのです。

有難いですよね ✨

バレンタインにチョコを渡しあうのは

どうやら日本だけの文化だそうです。

そのチョコにも義理や友チョコなど様々ありますが、

もらって一番嬉しいのはやはり本命でしょうか。

浄土真宗で大切にさせていただいている阿弥陀様という仏様は、大きな苦悩を抱えている私の姿をご覧になって、

この私のために「その苦しみから救いますよ」と

立ち上がってくださいました。

「あなたが本命です」とおっしゃってくださいる仏様なんですね。



親鸞聖人 降誕会 ごうたんえ

聖徳太子奉賛会(太子講) たいしこう

令和5年
5月20日

親鸞聖人のご誕生をお祝いする「降誕会」。今年は、聖人御誕生850年という大きな節目を迎えました。聖人のお誕生日は五月二十一日(新暦)ですが、当寺では毎年一日繰り上げて二十日に法要をお勤めしています。



また親鸞聖人が「和国の教主」と崇敬された聖徳太子を讃える「太子講」も併修してお勤めいたしました。本堂は天井版張り替え等の修復工事中だったため、対面所にて住職が講師をつとめる「自勤め」の形で勤修いたしました。

宗祖親鸞聖人 報恩講 ほうおんこう

令和5年 6月27日・28日

浄土真宗門徒にとって最も大切な年中行事がこの「報恩講」です。宗祖親鸞聖人の遺徳を偲び、聖人の示された尊いお念仏のみ教えを、すべての光心寺門徒が聞かせていただき、「自分自身では気がつかない自分自身の本当の姿」を知らされ、この人生を強く明るく生き切る私にならせていただく、という大切なお勤めです。報恩講には、少なくとも一座はお詣りさせていただきますでしょう。

今年も、27日が「第三世住職一周忌法要」、28日が「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年・本堂修復落成法要」として勤修させていただきます。

初日の法要のあと、落語家の笑生十八番さんにお越しいただき落語会「おてらくご」を開催いたしました。二日目の法要後には、清水町の住職漫才コンビ・シミーズのお二人をお招きし、「漫才説法」を披露していただき、最後に「記念大抽選会」で盛り上がりました。この度は、神戸市高松寺・谷川弘顕



先生にお取り次ぎをいただきました。当寺には3度目のご出向となります。谷川先生は、



京都の本山の伝道院にて、布教伝道を志す布教使の育成に尽力してこられました。先生はいつも「布教伝道はライブ」であるから、聴聞されている眼の前の方々のことをよく鑑みながら仏法の話をしていかなければならない、と仰います。無常の世においてこの度のご法縁に出遇えたことが、私たちの人生にどれほど大きな意味があることかと、心に染みいるご法話をいただきました。

秋季永代経法要

令和5年11月26日

秋季永代経法要には、島根県・妙壽寺・村上元師にご出向いただき、お取り次ぎをいただきました。本年も一日一座のお勤めとさせていただきます。

この度は、コロナ禍にあつて中止していた「灯火の集い」を4年ぶりに執り行いました。これまで大切な方を偲びお詣りしたいと思っていたご遺族もたくさんいらしたことでしよう。思いもよらぬ感染症の蔓延によって、追悼の催し「灯火の集い」も中止を余儀なくされました。過去4年分のご遺族にご案内申し上げ、120人を超える皆さまにご参詣いただき、初冬の本堂が満堂となりました。



御正忌報恩講・

仏婦報恩講（仏婦新年会）

令和6年1月21日

御正忌報恩講は、親鸞聖人の祥月命日（新暦の一月十六日）に、聖人を偲んでお勤めする御正忌報恩講。ご本山・西本願寺では一月十六日を最終日・御満座として八日間報恩講がお勤まりになっています。

今年、熊本教区・良覚寺住職・吉村隆真師にご出向・お取り次ぎいただき、聖人のご遺徳をもに偲ばせていただきました。



午後からの一座法要としてお勤めいたしました。法要後には恒例の新年お楽しみ抽選会を行い、皆様と楽しいひとときを過ごさせていただきました。また、この度前坊守が米寿を迎えましたので、仏教婦人会の皆さまから花束が贈呈され、ご参詣の皆さまからお祝いただきました。



仏教婦人会・親光会 会員物故者追悼法要・ 合同研修会

令和6年2月21日

今年も仏教婦人会と親光会の合同追悼法要および研修会を執り行いました。はじめに、各会物故会員の追悼法要をお勤めし、会の発展に寄与いただいた功績をたたえ、哀悼の意を表しました。

続いての研修会は、熊本教区新公専寺住職・清水谷篤仁師にご出向・お取り次ぎいただき、「そのままいただく弥陀の呼び声」という講題でお話しいただきました。

「我にまかせよ。必ず救う」が「南無阿弥陀仏」の弥陀の呼び声。私の声にまでなつて私に到り届いてくださっている阿弥陀という仏さま。まさにその私への呼び声を聞かせていただくことが、お念仏申す意味なのだ、という浄土真宗のみ教えの核心をわかりやすくお伝えいただきました。



春季彼岸会・永代経法要

令和6年3月21日

真西に太陽が沈むこの時季、人々は彼岸の世界・西方浄土に思いをはせ、先立つた方々を偲んできました。それが春のお彼岸です。当寺ではこのお彼岸に合わせて、春の永代経法要をお勤めしています。永代経法要は、125年前の開教当時からお名前を記し続けてきた永代経法名軸を掲げ、開教以来尊いご懇志を志納し、お寺に貢献された先人を偲ぶ法要でもあります。

この度のご講師には、苫小牧市・真宗寺・朝倉恵晶師をお招きし、お彼岸の意味とお念仏のお心をお取り次ぎいただきました。



松田正志総代長に叙勲褒章

この度、松田正志責任役員・総代長が「旭日章」を授与されました。

帯広市会議員を12年間勤められた他、公職として帯広市防犯協会会長や市内の社会福祉法人の理事長等を歴任された功績が高く評価されて、今回の叙勲褒章の誉に輝きました。本山・本願寺からも祝意をあらわす賞状が届けられ、春季永代経法要の折に住職よりお渡しいたしました。



新役員ご紹介

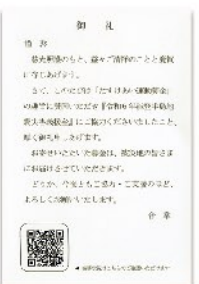
長年事務局員としてたいへんなご尽力をいただいた野嶽素昭さんがこの度ご退任になりました。忠昭さんにはこれまでの功績に深く感謝申し上げます。また、忠昭さんに代わってご子息の素克さんが新たに事務局員としてご就任くださいました。どうぞよろしくお願いいたします。



事務局員
大正町 野嶽 素克 様

能登半島災害義援金

本年1月1日午後4時10分、能登半島を中心としてM7.6という大きな地震が発生し、沿岸部を津波が襲い、とても多くの方が被災されました。当寺でも法要の折、災害支援のための義援金を募り、集まった25,611円を「助け合い運動募金」として送らせていただきました。



灯夜の集い

秋の永代経では、コロナ禍の間、行うことができなかつた「灯火の集い」を開催いたしました。大切な亡き方を偲んで蠟燭や花明かりを捧げるこの灯火の集いには、120人を超える方々がお詣りくださいました。天井板が新たに多くの花で彩られ、内陣壁面には蓮水を画き、お浄土の荘厳がいつそう麗しくなった本堂。ここで行われた追悼の催しは、大変賑かだった、と多くの方よりご感想をいただきました。



祝 米寿

御正忌報恩講・ 仏教婦人会報恩講

1月21日



米寿を迎えた桃井三千世前坊守に、1月21日の御正忌報恩講・仏教婦人会報恩講の折、松田正志総代長、国島千意子婦人会長よりご祝辞をいただき、仏教婦人会よりお祝いの品・花束を贈呈いただきました。また各会からもお祝いをいただきました。前坊守から「このお寺に嫁いであつたという間に年月がたちました。思いがけず米寿のお祝いをしていただき、感激しています。有り難うございました」とお礼の挨拶がありました。

桃井三千世前坊守 松田正志総代長 の米寿を祝う会

2月5日



松田正志総代長は、前坊守と同じ年でしたので、「桃井三千世前坊守・松田正志総代長の米寿を祝う会」が、令和6年2月5日、ホテルグランビリオにおいて、総代・役員・各会の代表の方々によって催されました。

大塚正昭副総代長による吟詠（詩吟の披露）があり、また仏教婦人会・和光会の皆さまによるお祝いの替え歌も披露されて、和やかな雰囲気の中、とても心に残る楽しいひとときとなりました。



水火二河の譬え

親鸞聖人が崇敬された七高僧のお一人・唐の善導大師は、ご著『観經四帖疏』のなかに有名な「二河の譬」を記されました。親鸞聖人は、この「二河の譬」を『教行証文類（きょうぎょうしよもんるい）』をはじめ、多くの著作に引用・註釈され、阿弥陀如来の本願のはたらきと眞実信心を示す譬えとして重要視しておられます。

果てしなく続く荒野を西に向かう旅人がおりました。突然その旅人の眼前に二つの河が立ちはだかりました。南には火の河、北には水の河が伸びていて、それぞれ底なしの深さがあり、ほとりもありません。

その水火二河の真ん中に、わずか4〜5寸（10数センチ）ほどの幅で10歩くらいの長さの白い道が東の岸から西の岸に向かって真っ直ぐと続いておりました。しかしその細い道に水河は激しく波を打ち、火河は激しく炎を上げ道を焼いていました。とても通れそうにありませんでした。

旅人の背後には、旅人を殺そうと群賊や悪獣・毒虫などが迫ってきました。旅人は恐怖におののきながらも「現前にはどう考えても渡れそうにない水火二河の間の白い道。背後には群賊や悪獣た

ち。このまま止まっても、引き返しても、前に進んでも間違ひなく死んでしまう！」という絶体絶命の危機のなかでこう決断しました。「よし、このみち死を免れることができぬのなら、この白い道を進もう」と。

そのとき東の岸から「その道を進んで行くのだ。決して死ぬことはない」と歩みを勧める声が聞こえてきました。



そして水火二河を越えた向こう側・西の岸からは「汝よ、一心にためらわず真っ直ぐこちらに来なさい。私は必ず汝をまもろう」と、旅人を招き喚ぶ声が聞こえてきたのです。東岸・西岸の声に後押しされ、旅人は荒波と火炎に覆われる細く白い道を進んでいきました。

旅人が道を渡っている途中、群賊たちが大声をあげ「おい、戻ってこい！その道は危険だ！向こう岸まで行くなっても無理だ！絶対死んじまうぞ！俺たちはお前を殺そうとは思ってない！戻れ！」と誘惑してきました。

でも旅人はその声に耳を貸すことも感わされることもなく、兩岸からの声を信じてひたすらにその白い道を進み、ついに西の岸へたどり着いたのです。旅人はそこで、さまざまな災いから永遠に離れることができました。また善き友と出会い、この上ない喜びや楽しみを享受することが出来たのです。

この譬えの中で、水火二河は人間の「苦」の原因である煩惱（水は貪り、火は怒りを象徴）をあらわし、その間の白い道こそ阿弥陀如来による救い・「お念仏の仏教」を示しています。東岸からの声はブツダ釈尊による勧め、西岸からの声は阿弥陀如来による「招喚の勅命」にほかなりません。

皆さんもこの「二河の比喩」を深く学び、ご自身の人生を見つめ直してみませんか？

十勝山 光心寺 第三世住職 聞光院 釋澤昭 一周忌法要

令和5年6月26日・27日に厳修された報恩講は、前日(26日)が桃井澤昭第3世住職の一周忌法要でした。大勢の皆さまにお詣りいただきました。20人を越すご法中がご読経くださり、荘厳な法要となりました。導師をお勤めいただいた中士幌・真徳寺のご住職は、昨年の11月に住職継職法要を執り行なって住職に就任されたところでしたが、大役を果たしてくださいました。



▲ 導師をお勤めいただいた中士幌 真徳寺住職・松浪賢誓 師



▶ 兵庫県神戸市 高松寺住職 谷川弘顕 師には両日のご法話をお勤めいただきました。



6月27日(火曜日)

法要後には、「おてらくごと」と称して落語会を開催いたしました。札幌から笑生十八番(しょうせいおはこ)さんにお越しいただき、本堂が笑いに包まれました。



▲ 落語家の笑生 十八番(しょうせいおはこ)さん

親鸞聖人御誕生850年
立教開宗800年

本堂修復落成

慶讃法要

6月28日(水曜日)

翌日(27日)には、報恩講の満日中として「親鸞聖人」誕生850年・立教開宗800年・本堂修復落成法要」が厳修されました。住職が導師を勤め、奏楽員による雅楽の生演奏の流れる中、行道(法中がご本尊の周りを右回りに歩きながら読経する作法)がおこなわれました。



法要最後のクライマックスには、内陣の法中に合わせて外陣でもご婦人方が散華する「大散華」も行われ、参詣の皆さまから喜びの声が上がりました。

親鸞聖人御誕生八五〇年 立教開宗 八〇〇年 本堂修復落成 慶讃法要



法要後には、清水町御影の真浄寺・永田弘彰住職と、清水町熊牛の寿光寺・増山直樹住職のコンビ『シミーズ』のお二人に「漫才説法」をご披露いただきました。仏教の法話を漫才形式で面白く、わかり安く伝えようという試みの漫才説法、ご参詣の皆さまから「楽しかったので、ぜひまた来ていただきたい」とのお声をたくさんいただきました。

その後、豪華な景品の当たる「記念大抽選会」を開催し、法要は最後まで大きく盛り上がりました。



◀ 漫才コンビ『シミーズ』



本堂の修復が完了いたしました

コウモリによる糞尿被害がひどかったため、本堂の天井板を金箔に花柄を描いたものに交換し、内陣の壁面を新たに蓮水を描き、畳もすべて表替えをいたしました。北余間（ご本尊に向かって右側）には、一周忌法要に合わせて、第三世住職の頂相（ちんぞう…僧侶の肖像画）を掛けました。



第三世住職一周忌法要 本堂修復落成慶讃法要 に向けて

6月に勤修された2つの法要に向け、松田正志総代長を委員長として法要実行委員会を立ち上げ、総代・役員・各会など多くの皆さまにお手伝いいただきま

した。このころから急激に気温が上昇し、とても蒸し暑いなか開催準備にご尽力くださいました。婦人会・和光会の皆さまには受付や案内を、また親光会の

皆さまには重い本堂扉の移動や炎天下の駐車場係でのお仕事など、たいへんなご苦勞をいただきました。有り難うございました。



▲ 本堂の重い扉を移動



▲ 6月25日 第一回法要実行委員会を開催



▲ 山田利幸親光会会長手作りの駐車場看板



▲ 抽選会の準備。景品の袋詰め



▲ 法要パンフレットの袋詰め



▲ 法要の横断幕貼り

親鸞聖人御誕生八五〇年 立教開宗 八〇〇年 本堂修復落成 慶讃法要



◀ 法要実行委員の皆さまと記念撮影

永代経特別懇志 志納者

(令和6年5月5日まで)

(生前永代経)

釋義浄

俗名 佃義雄

一、金壹拾伍万円也

施主 佃義雄殿

利楽院釋実明

俗名 小森 利明
(令和5年12月23日寂 行年89歳)

一、金壹拾万円也

施主 小森 敦史殿

紡經院釋尼裕光

俗名 井上 裕子
(令和6年2月10日寂 行年99歳)

一、金貳拾万円也

施主 井上 晃一殿

暢和院釋雄願

俗名 横川 和雄
(令和5年7月20日寂 行年78歳)

一、金伍拾万円也

施主 横川 和博殿

慈惠院釋尼美德

俗名 竹部 美惠子
(令和6年1月6日寂 行年93歳)

一、金壹拾万円也

施主 竹部 正博殿

(生前永代経)

一、金壹百万円也

施主 鈴木 忠實殿

釋陽照

俗名 高田 ひまり
(令和4年10月31日寂 行年1歳)

一、金壹拾万円也

施主 高田 沙敏殿

博道院釋仁則

俗名 森 博則
(令和5年8月12日寂 行年74歳)

一、金伍拾万円也

施主 森 尚基殿

明鏡院釋尼久法

俗名 山田 久子
(令和6年3月21日寂 行年99歳)

一、金参拾万円也

施主 山田 富士雄殿

釋尼祥佳

俗名 森 ヨシ子
(令和6年1月17日寂 行年92歳)

一、金参拾万円也

施主 前多 里美殿

俊匠院釋堅正

俗名 中村 正
(令和5年8月23日寂 行年96歳)

一、金貳拾万円也

施主 中村 正弘殿

永代経特別懇志について

永代経特別懇志は、往生された方を
ご縁として、「お念仏のみ教え
が、いついつまでもこの光心寺に
伝わっていきますように」との志
より納められることが一般的です。
故人への追慕から、その遺志を受
けた施主が、故人になり変わって
納めていただく場合が多いのです
が、本人のお気持ちからお寺に納

められる場合もあります(生前永
代経懇志)。故人の法名はお一人
おひとり永代経法名軸に記され、
春秋の永代経法要には、その軸を
お掛けして故人を偲びながらお勤
めがなされます。志納金は、仏具
の修繕をはじめ、み教えの伝道や
護寺発展のため大切に使用してい
ただいております。



かげ 陰の力

「お陰さま」

世話人の皆さま

いつも「お陰さま」で有り難うございます。
お寺の運営には世話人の皆さまのご尽力が
欠かせません。

あらためまして感謝申し上げます。

「お陰さま」は「陰」を敬う言葉です。

「陰」とは、特定されなかつたり、

気づいてもらえないところで

支えてくれる力のことです。

昔の人はその陰の力を感じ取り、

「陰」を敬って「お(御)」と

「さま(様)」を付けて丁寧語としました。

それが「お陰さま」です。

世話人の皆さまのお働きは、

まさに「陰」の力。

ほんとうに「お陰さま」で

有り難うございます。



令和六年度 世話人の皆さま

いつもお世話になります。有り難うございます。

帯広市愛国町	中山	賢寿様	帯広市大空町	古田	稔様	帯広市街	川口	英樹様
帯広市愛国町	宮澤	宏様	幕別町古舞	松田	育禮様	帯広市街	林	昭一様
帯広市大正町	福島	将文様	幕別町古舞	佐伯	勝則様	帯広市街	井上	晃一様
帯広市大正町	田中	久善様	幕別町古舞	速水	徹様	帯広市街	林	延光様
帯広市大正本町	国島	直幸様	幕別町栄	中村	俊幸様	帯広市街	鈴木	忠実様
帯広市大正本町	米谷	光則様	幕別町美川	佐藤	宏孝様	帯広市街	古田	敦則様
帯広市昭和町	大岡	克則様	幕別町途別	稲川	郁子様	帯広市街	中山	美恵子様
帯広市昭和町	竹部	伸英様	幕別町五位	栗野	実様	帯広市街	香田	究様
帯広市昭和町	坂本	淳一様	幕別町札内	若山	修様	帯広市街	納村	昌克様
帯広市幸福町	飯田正一郎様	利幸様	幕別町札内	川原	利弘様	帯広市街	山田	孝敏様
帯広市幸福町	山田	利幸様	幕別町札内	守護	康伸様	帯広市街	久保	直栄様
帯広市中島町	高田	郁雄様	幕別町札内	廣川	克美様	帯広市街	小川	郁夫様
帯広市泉町	久保	卓朗様	更別村更別	田中	愛規様	帯広市街	亀井	信行様
帯広市以平町	山田	俊幸様	更別村勢雄	安田	幸司様	帯広市街	坂上	清様
帯広市桜木町	小森	隆寛様	中札内村大通り	窪田	義正様	帯広市街	馬淵	孝様
帯広市桜木町	辻	賢治様	広尾町丸山通り	常富	彰仁様	帯広市街	横山	幸彦様
帯広市桜木町	鈴木	芳一様	芽室町東5条	中田	正一様	帯広市街	川口	悦敬様
帯広市川西町	石田	雅人様	芽室町西士狩	佐伯登貴子様		帯広市街	池田	愛子様
帯広市川西町	黒田	啓子様	音更町駒場	山田	邦夫様	帯広市街	加賀	文明様
帯広市川西町	大塚	敏幸様	音更町新通	小田	安雄様	帯広市街	水野	実様
帯広市豊西町	高田	勝則様	音更町共栄台	若山	勝様	帯広市街	上坂	英夫様
帯広市基松町	高田富士子様		帯広市街	勝見	恒徳様	鹿追町	古後	隆様
帯広市上清川町	五十嵐	守様	帯広市街	小森	正伸様			

世話人が変わられる場合は、必ずその担当地区内で次の方をお選びいただき、お寺の方に連絡願います。

法要当番 令和5年

今年度は、幸一・加賀・愛国・更別・中札内・帯広東地区の皆さまにお手伝いいただきました。担当地区総代の田中久善さんの指揮の下、各法要の準備として、本堂・対面所・書院などの清掃や荘厳、また法要等当日の講師接待など、精力的にお手伝いいただきました。第3世住職一周忌・本堂修復落成慶讃法要もありましたので、よりご苦労が多かったことと思います。有り難うございました。

お寺をささぐる
ご門徒の
みゆきさん



浄土真宗のお寺は、
ご門徒の皆様によって
成り立っています。
このコーナーでは、
お寺を支えてくださる
皆様の様子をスナップ
してみました。



清掃 当番

令和5年

今年度は、大正本町・昭和・中島・幸福・芽室
・帯広西地区の皆さまにお世話になりました。
地区担当総代の山田利郎さん、松本竹夫さんを中心
に、法要前の境内清掃・整備に何度もご足労・
ご尽力いただきました。有り難うございました。



剪定

6月21日

総代・事務局の皆さんによって、猛暑の中、境内の木々を剪定してい

ただきました。高所作業車も、用意してくださったので、高いところも綺麗になりました。



お寺をささぐる
ご門徒の
みゆきさん

盆詣り後の清掃

8月17日

恒例のお盆の後の大掃除。総代・役員・各会の皆さんによって綺麗にしていただきました。お供え物は、多くの方が持ち帰ってくださっていますが、まだまだたくさん残されています。特に生ものはカビ発生の原因にもなりますので、「お供え物はお下がりをお願いいたします」ということを日うちにご案内し、「より徹底していただきますようお願い申し上げます。」



浄土真宗のお寺は、ご門徒の皆様によって成り立っています。このコーナーでは、お寺を支えてくださる皆様の様子をスナップしてみました。

法要でのお仕事

法要が催されると、総代・事務局の皆さんは大忙し。司会、鐘撞き、開扉など……。いつも有り難うございます。



5月上旬 植樹

無量寿堂南側に八重桜の植樹また、正面の堀沿いには植木の寄進をいただきました。境内がより一層綺麗になりました。深謝申し上げます。

よつ葉産業の庄島さんより、



米寿祝いの打ち合わせ



無量寿堂欄干修復

長年雨風にさらされ、崩れかけていた無量寿堂の欄干を修復しました。

今にも崩れそうな危険な欄干……

元の形に修復完了です



境内冬支度

11月中旬、親光会・総代・役員の方々に境内の冬支度をいただきました。

11月14日



大晦日、「除夜の鐘」を撞きに來る方のため、鐘楼堂の階段などを綺麗にさせていただきました。





Cブロック門徒総代研修会
2023年 11月 30日



第65回十勝組仏教婦人大会
第30回十勝組若婦人研修会
2023年 7月 3日



御正忌報恩講・仏婦報恩講の折、
米寿を迎えた前坊守に花束を贈呈
いただきました 2024年 1月 21日



十勝組
仏教婦人会 研修会
・総会
2024年 3月 26・27日



十勝組総代会・壮年会合同一泊研修会
2024年 2月 26・27日

編集後記

*光心寺だより第三十二号が完成しました。ご覧いただけると有り難く存じます。

ホームページを立ち上げて以来、発行は年一回となりましたが、あいかわらず内容は十分とは言いたいものです。ご感想などお寄せいただけると幸甚に存じます。

*昨年の前任一周忌から一年が経とうとしています。月日の流れの早さを痛切に感じます。

*本堂の修復工事を無事完了させていただき、感謝の念に堪えません。創建から一世紀を超えたこの歴史ある本堂を、適切なメンテナンスをほどこしながら、尊いみ教えとともに大切に守っていきたいと思います。

*今年の降誕会では、久しぶりに「初参式」を行いました。お子様方が掌を合わす姿は、純粹にして可愛くも尊いと感じます。次号の光心寺だよりでは、ご参加いただいたお子様の可愛い写真も掲載できるなあ、と今から楽しみです。

(住職記)